

2019 第 7 号



蕪高 SSH だより


発行 12 月 10 日

2019 年もあとわずか！さて、今回は浅川・櫻井が担当します。

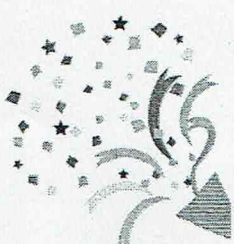
【山梨県高等学校芸術文化祭】

祝！物理科学部 「階段の踊り場における共鳴の研究②」

最優秀 山梨科学アカデミー賞 & 芸術文化祭賞



山梨県立蕪崎高校の物理科学部が、今回の山梨県高等学校芸術文化祭で優秀な成績を収めました。そこで、この研究のリーダーである、茅場広大(2・5)さんに話を聞いてきました。



Q. 研究の動機は？

A. 階段で話しているときに、どうして階段では声や音が響くのだろうかと疑問に思い、階段での共鳴の研究を始めました。

Q. 今回の大会において工夫した点は？

A. 発表するときに使うスライドを、聞いているひとにわかりやすく伝わるように作ったり、メンバー全員で発表内容を共有したりしておいて、スムーズな発表をできるようにしました。

Q. 苦労した点は？

A. データ採取に苦労しました。共鳴は気温に影響されたり、いろいろな音がないときは実験ができなかったりと、さまざまな制約がある中での実験となり、大変苦労しました。

Q. 今後に向けての意気込み

A. 前回、先輩が全国 1 位になったので、その後に続けるように全国 1 位を狙って頑張ります。

祝！ポスター部門 芸術文化祭賞 受賞

「水中シャボン玉の研究③～光の干渉を利用した膜厚の測定」

加藤貴晴 尾形健斗 (1-6)

今年、芸文祭で全国一位を獲得した小関先輩のあとを継いでいるこのチーム。

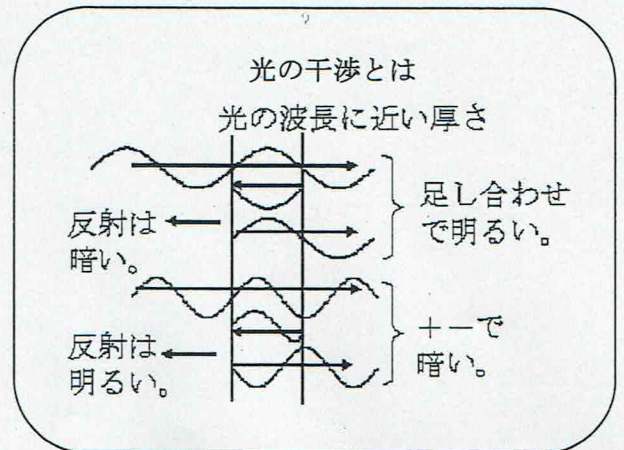
小関先輩の背中を追って、卒業までに全国一位をとることが目標

小関先輩の研究と違う点

光の干渉で空気膜の厚さを測る！

今後

- ・ 空気膜が薄くなる理由とは
- ・ 水中シャボン玉が割れる理由とは
→ 割れたら空気膜の中の空気が抜けるはず。
でも気泡が見られない。なぜなのか。



科学の甲子園

科学の甲子園は、高等学校等の生徒チームを対象として、理科・数学・情報における複数分野の競技を行う取り組みです。全国の科学好きな高校生が集い、競い合い、活躍できる場です。

各県の予選の中で、代表チームが次の大会に進むことができます。(結果は 12 月上旬発表) 11月10日(日)に、山梨県予選が行われました。

最後の科学の甲子園 2-6 小澤光希

各教科にメンバーを割り当てて、各自過去問を解くなどして対策を行いました。
来年出場するみなさんは、ルールにしっかりと則り、みんなで考えて協力することが大切です！

初出場！科学の甲子園 1-4 及川聖輝

総合競技「ピンポイント着地を狙え！」に参加しました。落下体のあるポイントにどれだけ正確に、どれだけゆっくり落とせるかを競いました。落下体は各自で製作し、バランスをとるためにさまざまな工夫をして作りました。

来年は、筆記部門でも活躍したいです。